

兵庫発 会員制サイト人気

開設2カ月半で1000人突破

インターネットのサイト上で経歴などを公開しながら情報交換や交流をするソーシャル・ネットワーキング・サイト(SNS)。県や市、区など、自治体単位とした地域SNSが全国各地で増えている。兵庫県内ではこのほど、企業や県、研究者らが、地域活動を支援するSNS「ひよこむ」を開設した。信頼性を重視し、完全招待制で実名登録が必要と、敷居は高いが、開設から二カ月半で会員千人を突破。まちづくりの議論や防犯情報など、密度の濃いやりとりが繰り広げられている。(広岡磨璃)

■ひよこむ■

主宰者は、姫路市在住のインターネットプロバイダー会社社長、和崎宏さん(47)。

これまで行政などとともに、地域の情報化に取り組んできた和崎さんは、県立大大学院でもSNSを研究。人と人をつなぎ、関係を強めるSNSの特長が、地域に眼を「地域力」を自覚めさせるきっかけになるのではと着目し、今年四月ごろから準備。九月に百二人で仮オープンした。

現在、地域SNSは全国に約八十あり、最も規模が大きいのは三千人余



防犯など地域情報交換

りの会員がいる福岡県の「VARRY」(ベイリ)」。県内では神戸の「シヨルベ」(約千八百人)がある。ひよこむの会員数は、増加のペースも速く、年明けには二人に達すると和崎さんは予測するが、「規模の小よりも、個人間の「紐帯」を太くする特性に意義がある」と話す。

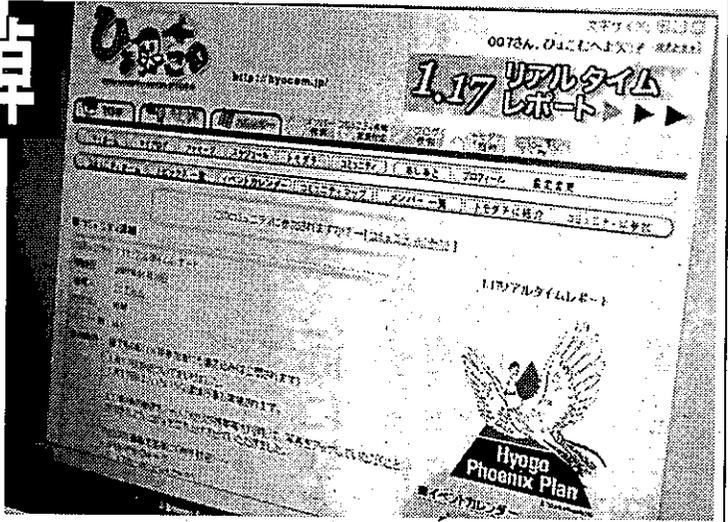
現在、県民は会員の八割強。会員は、地域の安全・安心情報やグルメなど興味がある「コミュニティ」に属し、情報交換、交流を深める。交流を通じて、新たな地域活動も生まれている。

県が小学校区単位のコミュニティ活動に助成する「県民交流広場」事業とも連携。県の牧慎太郎・政策局長は「人間関係の豊かな地域社会は、犯罪も起こりにくく、暮らしやすい。『ひよこむ』は地域活性化の一助になるはず」と期待を寄せる。アドレスは<http://http://h.yocom.jp>

トップページでは、友人や地域活動の動向が一覧できる「ひよこむ」

SNSで震災追悼

県職員ら協力の「ひよこむ」 被災地の祈り 新手法で



のSNS。県内全域の情報が交換できる上に実名登録と完全招待制で高い信頼性を誇り、まちづくりや地域防犯の話合いに役立っている。「犠牲になった6434人への祈りを、追悼に來れない人とも共有したい」「皆が助け合って命をつないだ震災体験を地域づくりに生かしたい」との声を受け、追慕の念や慰霊行事での思いを交わすコミュニティ「1・17リアルタイムレポート」が立ち上がった。

事前にメモリアルウォークなどの追悼行事を案内し、50人以上の参加者が当日、被災地の今や鎮魂の思い、参加者自らの被災体験などを写真を交えて携帯電話から発信するSNS「ひよこむ」で、17日前後の追悼行事を参加者がリアルタイムで報告し、インターネット上で震災の教訓を語り継ぐ。ひよこむは昨年10月の開始以来、会員数1400人を突破した急成長中

【林田七恵】

阪神大震災から12年。犠牲者をしのぶ行事が減り体験の継承が課題とされる中、地域SNS(ソーシャルネットワークワーキング

ことば SNS インターネット上でプロフィールを登録し、日記や写真を公開しながら交流する会員制サービス。日本では昨年9月、東証マザーズに上場した最大手「mixi(ミクシイ)」が有名。一般的に無料招待制で、個人情報公開対象を限定できる。また、趣味や出身地など共通の関心を共有する会員が集まるコミュニティ外での情報交換も広がっている。

ネットでも追悼報告

会員サイト、新たな試み

阪神・淡路大震災から十二年。各地で追悼行事や震災関連行事が催されるが、地域SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用した新たな追悼の形がスタートする。地域活動支援を掲げ、市民グループや企業、県職員有志らが協力するSNS「ひよこむ」で、行事に参加する会員が、会場の様子を写真や文章でリアルタイムで報告する。メンバーは「『あの日』を忘れないことも、SNSを災害時の情報共有に役立てたい」と話している。

(広岡磨瑛)

災害時対応も

1・17の情報共有へ



SNSは、インターネット日記や写真などを公開しながら交流を深める会員制サービス。昨年九月に開設された「ひよこむ」は、現在、県内外に約千四百六十人の会員がいる。地域活動やまちづくり、防災など共通の関心を持つテーマごとに分けられる「コミュニティ」で、情報の交換・共有をしている。

震災から十二年を前に「1・17」の震災関連行事に参加するメンバーが会場の様子を中継する

「1・17」の震災関連行事に参加するメンバーが会場の様子を中継する

に、慰霊の心や追悼行事の様子を共有しようとの機運がサイト内で高まり、携帯電話から写真や動画が投稿できるような機能が向上したこともあり、「コミュニティ」17リアルタイムレポート」を立ち上げた。約七十人が参加し、メモリアルウォークなど追悼・震災関連行事に参加したメンバーが、携帯電話で撮影した画像や動画を発信。「ひよこむ」の会員はパソコンや携帯電話

地域活動支援サイト「ひよこむ」

今後の活用法模索

で 路 フォーラム

(第3種郵便物認可)

インターネットで情報公開しながら交流を深めるソーシャル・ネットワーキング・サイト(SNS)の兵庫県版「ひよこむ」について考えるフォーラムが二十三日、姫路市新在家本町、県立大新在家キャンパスで開かれた。開設後の歩みや、地域力の向上に結びつける活用法などについて意見が交わされた。

「ひよこむ」は、地域活動の支援を目的とし、県民有志が九月に開設。サイトにでは会員が興味のある複数の「コミュニティ」に属し、まぎはぐりなどに関するやりとりを繰り返している。現在、約千三百人の会員がいる。フォーラムには約五十人が参加。開発したインフォシーム(姫路市)部長の和崎宏之が「ひよこむ誕生」と題し講演。「地域のSNSでは身の回りの人脈が可視化でき、話し合いがはかばかしくな

と感じられる。平時接続性も保てる。「ひよこむ」の活用で地域力の覚醒を」と呼び掛けた。

パネル討論では、行政やNPO法人、研究者などの「ひよこむ」会員が今後の活用法などを意見交換。県立大環境人間学部 岡田真美子教授は「地域のSNSには、『講』など旧来の日本型地域ネットワークが生きていく」と指摘した。

(山田真由美)

話で閲覧できる。主宰する和崎宏之(右)「姫路市には地域SNSが災害時に果たす役割に期待を寄せる。」果実としてくる情報を共有し、いざという時に活用できるよう、「1・17」という大切な日に実証したい」と話している。

兵庫県内居住者地域別分布

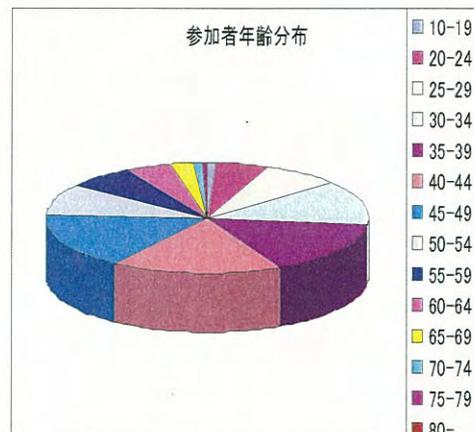
姫路市	394	芦屋市	9	小野市	3
たつの市	68	洲本市	9	神崎郡市川町	3
宍粟市	15	三木市	9	佐用郡佐用町	3
揖保郡太子町	9	加西市	9	朝来市	3
		加古郡播磨町	9	神崎郡神河町	2
神戸市	226	豊岡市	9	多可郡多可町	2
明石市	51	篠山市	8	川辺郡猪名川町	2
加古川市	43	丹波市	8	美方郡新温泉町	1
伊丹市	30	川西市	8	養父市	1
宝塚市	29	加古郡稲美町	7	美方郡香美町	0
西宮市	28	淡路市	7		
三田市	23	南あわじ市	7		
相生市	17	加東市	6		
赤穂市	16	神崎郡福崎町	5		
尼崎市	15	西脇市	4		
高砂市	15	赤穂郡上郡町	4		

2007年1月4日調べ

13

参加者年齢別構成比

年齢	男性		女性		全体	
10-19	2	0.1%	10	0.7%	12	0.9%
20-24	40	2.9%	34	2.4%	74	5.3%
25-29	68	4.5%	45	3.2%	108	7.7%
30-34	116	8.3%	69	4.9%	185	13.3%
35-39	149	10.7%	66	4.7%	215	15.4%
40-44	159	11.4%	82	5.9%	241	17.3%
45-49	163	11.7%	59	4.2%	222	15.9%
50-54	98	7.0%	31	2.2%	129	9.2%
55-59	62	4.4%	31	2.2%	93	6.7%
60-64	51	3.7%	13	0.9%	64	4.6%
65-69	30	2.2%	4	0.3%	34	2.4%
70-74	11	0.8%	1	0.1%	12	0.9%
75-79	5	0.4%	0	0.0%	5	0.4%
80-	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
	950	68.1%	445	31.9%	1395	



14